

令和5年度第2回川崎市子ども・子育て会議 子ども・子育て支援推進部会 議事録

■ 開催日時

令和5年9月5日（火）午後6時00分～

■ 開催場所

川崎市役所第3庁舎12階会議室

■ 出席者

（1）委員

- | | |
|----------------------------|---------|
| ●公益財団法人川崎市生涯学習財団 理事長 | 石井 宏之氏 |
| ●NPO 法人子育て支えあいネットワーク満 代表理事 | 河村 麻莉子氏 |
| ●川崎商工会議所 専務理事 | 三瓶 清美氏 |
| ●公募委員 | 塩見 郁美氏 |
| ●川崎市青少年指導員連絡協議会 理事 | 豊島 このみ氏 |
| ●専修大学 名誉教授 | 吉田 弘道氏 |

（2）行政所管課・事務局

- | | |
|-------------|-------|
| ●総務部企画課長 | 北川 直子 |
| ●総務部企画課担当係長 | 熊島 豊和 |
| ●総務部企画課職員 | 西川 遼 |
| ●総務部企画課職員 | 柴田 直紀 |

■ 配布資料

資料1 「子ども・若者の“声”募集箱」の本格実施について

参考1 川崎市子ども・子育て会議子ども・子育て支援推進部会委員名簿

参考2 川崎市子ども・子育て会議子ども・子育て支援推進部会行政出席者
名簿

参考3 川崎市子ども・子育て会議条例

■ 傍聴者

なし

1 開会

2 議事

※摘録につき「である」調で記載しています。以下、ポイントを抜粋して記載。

議事１ 子ども・若者の“声”募集箱の本格実施について（報告事項）

資料１をもとに所管課から説明。

＜質疑等＞

【河村委員】

G I G A端末から結構声が寄せられているということで、G I G A端末を小学生は持ち帰ることはあるのか、どれぐらいG I G A端末を自由に使用できる時間があるのか知りたい。また、中学生もそのような端末を持っているのか。

【事務局】

G I G A端末の持ち帰りについて、教育委員会に事前に確認したところ、学校によって多少違いはあるが、できるだけ持ち帰れる方向で対応していると聞いている。また、中学生もG I G A端末を活用しており、募集箱のURLをブックマークに登録してもらい、検索しやすいようにしている。

【河村委員】

また、学校にあまり行けていないお子さんも増えているかと思うが、そのようなお子さんはG I G A端末を扱える状況にあるのか。

【事務局】

そのお子さん個別の対応を学校側としてどうされているかというところにはなるが、仮にG I G A端末をそのお子さんが持っていない状況だとしても、スマホや自宅にパソコンがあれば、そういったツールから投稿することは可能である。

【塩見委員】

この取組はいいと思うが、市として私立、公立含め小中学校、高校等々と連携を強化していくと伺っているが、具体的にはどういった内容なのかとお聞きしたい。例えばお手紙を配るだけという内容になるのか、それとも、政治に関する話なので、社会の授業とか政治経済、中学生だと公民とかの授業があると思うので、そういった授業の中で、実際に川崎市へ自分の声を上げてみて、結果どういうフィードバックがされたなど、授業に取り組んでいくのか。そこまでできれば、子どもたちにも認知され、意見も上がってくると思う。だが、学校からのお手紙の中に入っていると、見られないで捨てられてしまう可能性が高いのではと思っている。授業までいかないとしても、学校の先生からホームルームなどで周知がされること等が必要であると感じている。

【事務局】

学校との連携について、18歳までの方だと働かれている方もいると思うが、この制度を始めるに当たって、まずお子さんたちに知ってもらうことが一番大事であって、学校の協力が欠かせないと私たちも思っている。試行実施のときも、各校長会長への説明や全市の校長会等を通じて説明させていただいて、G I G A端末のブックマークに登録してもらったということも、学校側との協力体制が取れた結果と考えている。

ただ、口頭での周知、プラスアルファの説明をしてくれる等、授業の中でというところについては、学校の先生の御負担が増えてもいけないというところもあり、「こういった取組が始まりました、ブックマークにも登録してあるので、ぜひお願いします」というところで説明をした。投稿された時間から、明らかに授業時間中にまとまった数が入ってきたので、恐らく学校の取組の中で活用いただいているところもあると感じている。件数を見ていただくと、1枚目の2について、令和4年12月に始まったときに、最初、かなりまとまった数が届いたが、ここは学校の方で周知いただいた結果と思っている。

また、川崎市立だけでなく、私立に通われているお子さんもいるので、そちらについてもオンラインで説明会を実施し、チラシを学校の教室に掲示してもらうというようなことはさせていただいている。引き続き、学校との連携を図りながら、まず広く周知を進めて、フィードバックをしていますというところを気づいていただけるような連携を取っていきたいと考えている。

【事務局】

教育委員会でいうと、子ども会議との連携をそもそもこの制度として持っているので、教育委員会が所管している子ども会議の検討テーマの一つというような連携を図っていくというところで、この仕組みを運用しているところである。

【塩見委員】

GIGA端末について、現在、私の子どもが、去年まで小学校6年生と今年から小学校1年生が2人いて、実際、今後もっとGIGA端末の活用事例が増えていくようにというお話が先ほどあったが、現状、大きい夏休みとかのときに持って帰れるかなぐらいで、実際持って帰ってきたとしても、この動画を見てねと。あと、1年生だから動画を見るだけ。高学年になってくると、GIGA端末を使うときに、ここにブックマークがあるのでしようというのを言ってもらわないと、子どもたちは気づけないという状況もあるので、先ほど試行されたときにまとまった数でとあったが、そういった授業で取り組んでくださる学校はこういった認知がされますけれども、そうでない場合、ブックマークに登録されています、お手紙を配りますだけだと難しいという気はしているので、今後ぜひ検討いただけるとありがたい。

【事務局】

なるべく機会を捉えて、学校側もこちらからの依頼にどういう形がいいのかというところを調整しながら進めていきたい。

【豊島委員】

主な内容を見たが、これは全部お答えをしていくのか。市長さんは全部見ていると言われていたが、答えられないものもあるのではないかと。市長さんが教えてあげるようなケースもあったらいいのではないかと。また、無理な要望について、回答するものなのか。

【事務局】

この制度は、子どもたちの要望をかなえるための制度ではなくて、子どもたちがしっかりと自分の考えを言える機会、こうすることで市に対してとか、街に対して想いを述べる機会があるのだよという機会の確保というところが1つの目的になっているので、市として、そこは現状としてはできないというところも含めて、所管課で市の考えというものを作り、ピックアップした主な意見をホームページで子どもたちに返していくという運用をしている。

【豊島委員】

フィードバックと言っているのだから、それなりに言われたら答えてあげてほしい。

【三瓶委員】

私学の子どもたちはどうなるのか。GIGA端末というところをメインにいくと、市立というイメージがあるので、ぜひ私学の子どもたちにも知っていただいて、意見を出していただけたらと思う。また、非常によい取組だと思うが、各局の受け止めはどうか。子どもたちは様々な意見を出してくると思うが、それを全ての局が一旦受け止める仕組みであれば、その局にとっては負担になってはいないか。一方で、これは子どもの意見だから、この程度でいいかという回答はよくない。所管局の負担を含めてどんな感じなのかというのがある。また、この意見を見ると個人的な意見はあまりないのか。何か個人的な悩みであったり、いじめだったり、いわゆる緊急対応が必要な内容が例えばここに入ってきたときに、どうするのが気になった。事例を見る限りではそういう意見はないが、出してきた人を特定できないとなると、どうなるのか。

【事務局】

私学については、確かに川崎市内に6校あるので、試行の段階での説明をさせていただいたのと、併せて本格実施に向けても、節目でしっかりと説明をさせていただきたい。確かに私学の先生と話をしていると、取組自体は評価をしていただけており、私学も学校の中のタブレットが結構進んでいるところもあるので、そういったところに個別にチラシを配信しますよと言っているところもあるので、引き続き、そこはしっかりとやっていきたいと考えている。

所管局の負担というところだが、こちらの寄せられた声の上位にあるように、学校のことや公園のことなど、正直、局のばらつきはあり、教育委員会や建設緑政局というところに、どうしても毎月、負担が大きくなってしまう。通常業務にプラスで新規で始まったものから、負担感はある中で、しっかりとそこは受け止めていただいて、市の考え方というものを戻してもらっている。ただ、試行の中で、効率よくできないのかという意見があり、そこは調整を進めているところである。

個人的な悩みとか相談については、これを始めたときに、どういうメッセージが入ってくるかというところが一番心配していたので、ホームページの作りとして、「ルール」というものの下に「約束」というものを入れ、「ご意見はこちらから」という市長の似顔絵のところをクリックすると、入力フォームに遷移できるが、そこに行く前の段階で、いじめとか家族の悩みとかについては直接こちらをクリックしてもらおうと、相談窓口一覧が出

てくるように、構造的な誘導を1つ対策として取ったところである。それでも入ってくることも想定しているので、投稿される度に必ず中身のチェックをして、万が一、SOS案件であれば、必要な限り特定に結びつけて、関係するところにつないでいくという体制で進めている。

【豊島委員】

私立というけれども、県立高校は大丈夫か。

【事務局】

県立高校にはチラシを配付し、掲示をしてもらっている。

【吉田委員】

良い取り組みである。試しの実施だったが、ホームページの内容を分かりやすくしているようなので、こういう形で早く対応してあげると、子どもたちも反応しやすい。行政からフィードバックをして、それに対して今度は子どもの方からまた返ってくるような、そういうやり取りができるといいと思っている。それから、子どもたちの意見の中に教員の仕事のことが書いてあって、子どもたちの想いは、ある意味切実である。時間があるときに対応して話を聞いてもらえと思うのに、忙しそうにしているのでなかなか話を聞いてもらえないなどがあって、子どもの方からすると、もっともっと先生と付き合いたいということを表している意見ではないか。ただ、この取組はフィードバックが難しいなと思っているが、検討していただきたい。

【事務局】

フィードバックをどうやっていくのかというところが、本格実施になった後も課題としてあり、まず、フィードバックしていることを知ってもらいたいというのがある。開始のときは、とにかく声を募集したいというところだったが、私たちも返していくというところが大きな役目ので、その点について、ホームページで今まで分かりにくかったところを、今までの声が見られて、市の考え方が出ますというところを工夫してみたが、まだまだ改善の余地があるので、今後、ホームページのリニューアルを続けていかないとはいけないと思っている。

学校の先生についての声は、仕事のこととか待遇のこと等、そういったところも全て教育委員会に届けている。個別回答しない前提ではあるが、市の考え方としては、局の方で作成してもらってというところを考えているので、どんな意見だとしても共有を続けていきたいと思っている。

【河村委員】

いい取組だと思うが、GIGA端末なりネット環境があるお子さんだったらいいが、それがないと表明が難しいとか、あと特別支援学校とも連携してというふうにあるが、なかなか入力して送信するということが難しいお子さんもあると思ったので、何か市長への手紙の子ども版というイメージで、その子どもにとっても、何か市民自治的な、地域の

自分たちの周りの課題を上げて、それに対して市が動いてくれたり、見解を聞かせてくれたり、いい取組だと思うので、本当に全ての子どもにその機会があるといいなと思った。

【三瓶委員】

市長への手紙はあるが、あれも子どもが書ける。そうすると、市長への手紙は返事がきちんと返ってくる。市長の手紙で書けば直接返事が来るが、こちらは方向性などがフィードバックされ、個々の回答ではない。だから、返事をもらいたい人は市長への手紙みたいな感じになるのか。

【事務局】

広聴制度として市長への手紙が一番大本にある。ただ、市長への手紙自体が、10代未満、10代からの投稿が全体の1～2%であり、現状の数がない。理由としては、手軽さが足りないのではないかということ。もう一つ、子どもの意見を募る手段としては子ども会議があるが、今はリニューアルをしてかなり幅広でやっているが、当初は自分でやりたいという意思表示を持ったお子さんで、人数的にも少ない中、数少ない中だけで子どもの意見を取っていますということは市としてどうなのだろうというところからのスタートであった。今回は広く手軽にというところを考え、ホームページでやることとなった。

ただ意見を返すということのやり取り、市長個人の意見ではなくて川崎市全体として、広く様々なものを、1対1の関係ではなく、他の子はどういう意見を言っているのだろうというところも見えるような形で返していこうというようなスタートが始まった。

【三瓶委員】

声を出せないような子どもたちもいる中で、市政に反映していきましょうというような仕組みなのか。

【事務局】

自分はこんなことを思っているが、同世代のほかの子はどう思っているのかということも広く気づいてほしいなという思いもある。フィードバックも皆さんにお知らせをしていきたいと思っている。

【石井部会長】

これは記名でも匿名でもどちらでもいいのか。

【事務局】

どちらでもよい。

【石井部会長】

メールアドレスなどで発信元がわかるのか。

【事務局】

専用フォームの中で、任意で名前を入れてもいいし、ニックネームでも可としている。連絡先についても任意設定となっており、入れたければ入れてくださいという設定になっている。

【石井部会長】

比率的にはどうか。

【事務局】

連絡先はない方が多い。氏名について、本名と思われるものとニックネームは半々である。

【塩見委員】

下の子は小学校1年生で対象外であるため、当該制度をやっているというのは、知らされていない。上の子は、去年、小学校6年生だったが、当該制度があるらしいと言も聞いたことがなかったので、学校によって、GIGA端末は使っていましたけれども、気づく、気づかないというのは多いと思われる。

今現在、上の子は中学1年生だが、市外に通っている。そうすると、川崎市から東京都だったり横浜市だったり、近隣の市区町村に通われている私立に行っている子に関しては、知るすべがないことについて、どう考えているのか。

【事務局】

様々な学校に行かれているお子さんに対してどうするか、私学、県外を問わずというところに対して、直接お子さんに届けることは、どうしても漏れてしまう部分が発生する。1つとして、先ほど市政だよりも載せましたと報告したが、市政だよりは基本、子どもは見ないと思っている。なので、それを見た御家族の方がお子さんに言ってくれることを期待して市政だよりを使ったり、あと、市のツイッターであったり、そういうところも子ども自身は多分それを追いかけていないが、そういった直接届けられなくてもいろんな機会を通して、保護者の方を経由してというところも含めて、もっと広く周知していくことについて、探っていかなければならないと思っている。

【塩見委員】

実現が難しいかもしれないが、例えば、市政だよりも必ず保護者が目にするものが児童手当の通知だと思う。必ず18歳未満の児童手当対象になっている家庭には届く。市政だよりについては、いつものやつだとなりがちだが、お金関係に関しては、目を通さない保護者はいないと思う。宛名の裏面等に取り組み始めましたとお知らせし、QRコード等を載せられたら、保護者の方の目に留まりやすいのかと思った。

【事務局】

参考にさせていただきたい。

【吉田委員】

中学生からの反応が少ないのが残念で、中学生になると、大人のやっていることを批判的に見る目が出てくるので、何かそれを拾える方法はないかと思っている。それで、中学校で学校の先生方がどれくらいこのことを案内してくれるかというのがとても大事なことで、と思うので、お願いできればいいと思う。それから、塾とか図書館にもお知らせを貼っておくと、子どもたちが見て、何か素朴なことだけれども言ってみようかと、そんなことがあるかと思ったりするが、いかがか。

【事務局】

確かに、中学生に対して、どうやったら一番響くかというところは考えているところである。今、吉田委員がおっしゃっていただいた図書館というのはいいアイデアだなと思う。中学生だと、試験勉強のために、勉強する場所を求めて図書館に行く頻度も増えてくる。こども文化センターには周知のチラシを置いているが、市の機関として、子どもが来そうなところについては、いろんな場所、機会を捉えてやっていかなければいけないと改めて思った。

【河村委員】

チラシに二次元コードを載せると、図書館等に貼られているところにかざして、すぐに入力できるのでいいかと思った。

【事務局】

見通しがある程度ついた段階で、そういったところもまた対応していきたい。

【豊島委員】

意見がないということは、子どもたちは満足しているというふうに考えることもできるのではないかな。もちろん、周知はしたほうがよい。

【石井部会長】

非常にいい制度ではあるので、制度の周知ということでは、今後工夫をして、知っていただいて、そういった部分で意見が増えると思われる。一方、フィードバックに重要さと難しさがあると思う。目に見えやすく実感できる内容のフィードバックもあるが、そういったものではない非常に政策的なものであるとか、なかなか実現不可能なもの、そこにどう応えていくかというところが難しい。そこが参考にさせていただきますみたいな話で終わってしまうと、意見を出してもあまり変わらないとなると、出す方も魅力的が薄れていってしまうのではないかな。また、市の取組としてどこまで本気で取り組むかみたいなのところも重要で、予算取りが必要なものとかがあれば、そこは全庁的なきちんとした受け止めとして取り組んでいかなければいけない。市役所として職員への意識づけも必要であるし、また、教育的視点できちんと返す必要があるものなど、いろんなケースがあって、それをどうするか、フィードバックの仕方が難しい。

今、試行段階で出している市長の回答の仕方を見たが、仕方ないと思うが、総論的にこ

んな意見が何件ありましたということでまとめて、総論的な返し方をしているものがあつたが、出した方の満足感、フィードバック感がきちんと得られるのかなというところも感じた。いろいろな取組方法があると思うので、試行を繰り返しながらやっていくことが必要なのかと感ずる。

また、今始まったばかりなので、企画課が業務の中でやっているが、本格的にやるのであれば、市役所の中でも市長への手紙のような体制をつくってやっていく考え方も今後必要なのかと感ずる。本当にいい制度であるから、今は試行錯誤の段階だが、周知を図りながら進めてほしいという感想を持った。

【事務局】

その実現に向けた予算、声を出していただいたお子さんは、自分が言ったことがどうなっていくのだろう、もしかして実を結ぶのかというところが気になっていくところと、全てが全てプラスの回答が出せるかどうかというところは、しっかりと市の考え方も伝えていかないといけないところなので、フィードバックの方法の中で経過を伝えられたら一番いいのかと思っている。市でこういう検討をした結果、こうでしたというところ。今回、もう本格に移りましたので、追っかけていけるような事案が出てきたら、そこはその経過も含めてフィードバックの中でというところが、1つ目指しているところである。また、予算に対する考え方も整理をしなければいけないと考えている。

本格実施になったので、持続可能なという視点で、先ほど言っていた業務の効率化であるとか、これはシステムが入っていない事業なので、職員が全て手作業で振り分けをして管理をしているものなので、制度全体について課題がある。また状況によって皆様から御意見をいただきたい。

【豊島委員】

声も出せない子の声を聞きたいということがある。それが本当の課題である。

【石井部会長】

SOS的なものをうまく拾っていけるかというのも、またこの制度の難しさでもあるだろう。

【事務局】

スタートの位置づけは、広聴制度というところでのスタート。広く皆さんの声を伺わせてくださいというところなので、声を上げられない子に対しては、アウトリーチ、個別支援の方からのアプローチというところになってくるので、そこは引き続き連携をしていきたいと思っている。

【塩見委員】

フィードバックについて、出している子ども自身も全て自分が言ったことがかなえられる、実現できるというのは思っていないと思う。ただ、実現できない意見があつたときに、理由をきちんと伝えてあげることが大事だと思った。

【事務局】

ピックアップしたフィードバックの意見の中で、そこは意識して伝えていきたい。

【石井部会長】

本日の議題としていただいたのは以上となる。皆様、本日は御協力どうもありがとうございました。それでは、事務局へお返ししたい。

【事務局】

貴重な御意見ありがとうございました。今日いただきました御意見を踏まえて、この取組を進めていきたいと考えている。引き続きどうぞよろしくお願いいたします。それでは、以上をもちまして本日の子ども・子育て支援推進部会を終了とさせていただきます。本日はどうもありがとうございました。

3 閉会

以上